

## 「7月度研修会/先端研」報告

修習技術者支援実行委員会 委員  
中嶋 幸宏 技術士(情報工学部門)

### 1. 研修会概要

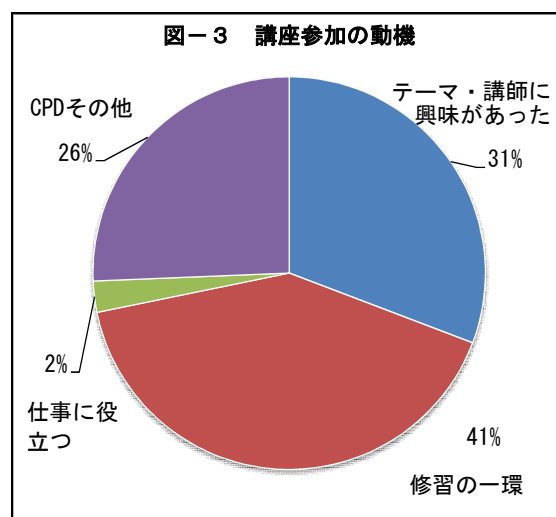
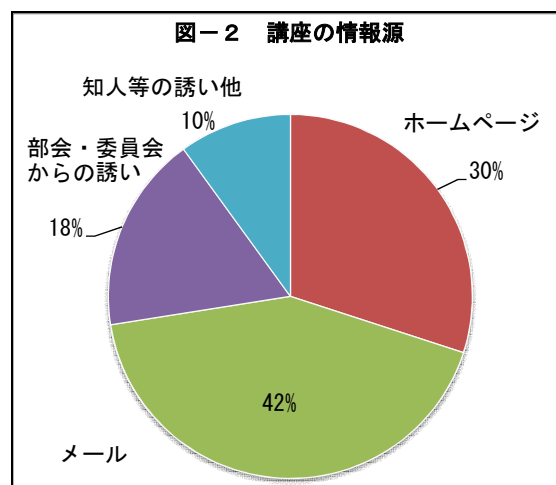
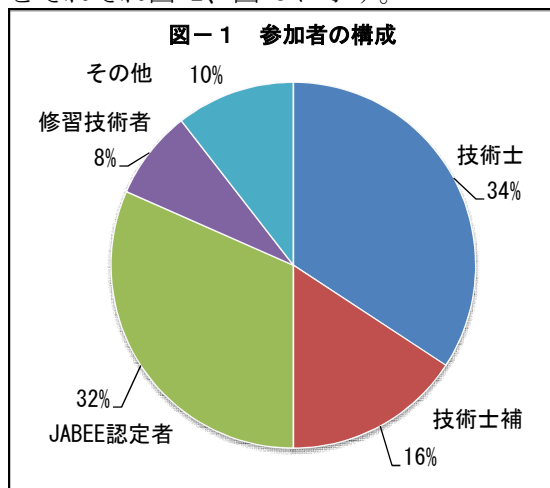
日時 平成24年7月14日(土)  
13:00~20:00  
主催 公益社団法人日本技術士会  
修習技術者支援実行委員会  
会場 日本技術士会荻手第二ビル5階

### 2. 研修会の内容

I. 研修会	司会	奥田 榮司
開会挨拶		13:00~13:05
修習委員会 委員長		榊 勲
講演1の目的と講師紹介		13:05~13:10
倫理委員会 委員		峰岸律子氏
講演1「生命科学の進展と生命倫理」		13:10~14:25
(独)放射線医学総合研究所		山内正剛氏
【休憩】		14:25~14:35
講演2の目的と講師紹介		14:35~14:40
研修委員会 副委員長		岡田恵夫氏
講演2「板挟みの心理学」		14:40~15:55
高崎健康福祉大学 准教授		宮内 洋氏
第一部閉会の挨拶		15:55~16:00
企画代表		峰岸律子氏
II. 先端複合技術研究発表会		16:00~18:00
司会		高橋 裕二
III. 情報交流会		18:00~20:00

### 3. 研修会の参加者

研修会の出席者30名(東京)、14人(中国本部)であった。参加者の構成は図-1に見る通りである。開催を知った方法と参加の動機をそれぞれ図-2、図-3に示す。



### 4. 研修会状況について

今月の研修会課題は「行動原則」で、技術者倫理がテーマである。最新の話題について第一線で活躍する研究者・技術者の講演から事例を学ぶ。講演内容は専門領域を越えて身近に考えられるものであり、歴史的視野の大切さも二人の講師を通じて伝わってきた。



写真1: 研修会の状況

#### ◆ 講演1について

峰岸律子氏より、最近の技術者倫理の話題として生命倫理・環境倫理・情報倫理があげられた。講演1は生命倫理である。

つづいて、山内正剛氏からご専門のDNAやゲノム解析を紹介した後、医学の発展の裏にある人体実験や優生思想について、歴史的な経緯を含めて講演いただいた。

倫理や道徳は、人間が持つ衝動に対するブレーキである。これだけで社会が治まるものではないが、法やルールを理解するためには社会背景として必要なものだと結ばれた。



写真2: 山内正剛氏の講演

#### ◆ 講演2について

岡田恵夫氏より、危機において結果を左右する要素の一つとして、葛藤(コンフリクト)という心理が紹介された。

つづいて、宮内洋氏から臨床心理学分野の紹介、そして板挟みの心理と称して葛藤について講演いただいた。

葛藤にはパターンがあり、主要な分類として「接近-接近コンフリクト」「回避-回避コンフリクト」「接近-回避コンフリクト」が紹介された。これは、何と何が問題となっているかを整理するツールとして使えるものであるとし、事例を交えて説明いただいた。

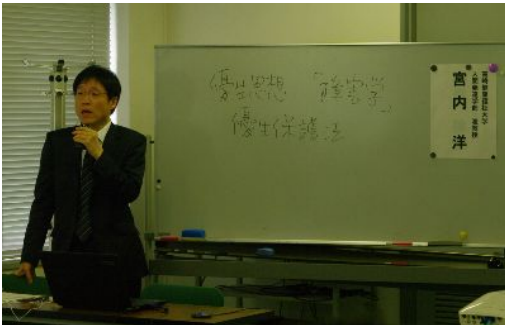


写真3: 宮内洋氏の講演

#### 5. 先端複合技術研究発表会

修習技術者3名からの発表があった。今回は中国本部からテレビ会議システムを通じての発表もあり、相互に質疑を行った。

① 村崎 諒氏: GPL 基準に則った運用手順書作成、システム対応、および実運用作業について

製薬分野で高信頼性を求められる解析システムについて、システム整備・手順書作成から維持のライフサイクルを管理の視点で報告された。

② 古賀亮人氏: 高規格道路における事業性、地域性に配慮した中間IC計画及び設計  
自動車専用道路のICについて、地域の既存道路とどのように接続させるか、評価軸を定めて定量的に整備計画を検討・提案した事例が報告された。

③ 太田高志氏: 有機電界発光デバイスの高性能化に向けた新規アプリケーションデバイスの開発

有機ELの特徴紹介とタブレットデバイスに適用する製品開発、薄型軽量化への取り組みについて紹介された。



写真4: テレビ会議システムによる発表

#### 6. 情報交流会

研修会終了後、主催者、参加者による情報交流を行った。

参加者間で積極的な名刺交換や歓談、自己紹介と今後の決意表明、先輩からは激励があり、有意義な時間となった。

特に参加者は、築かれた人間関係を今後に役立てていただきたい。

以上